

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開設当初から理念を明確にし、ホーム内に掲示する等して職員の理解を得られるようにしている。 また、今年度よりユニット独自にも身近な目標を立て、それを達成できるように職員は業務にあたっている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	入職時の説明に加え、ホーム内に掲示する等して職員が理解しやすいようにしている。 日々の業務を、理念を念頭に置き行っているとは言いが、それに基づいたケアは行っていると考える。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	館内に掲示している為ご家族等来訪者は掲示物を目にすることもあると思われ、また日常の関わりを見ていただいている中である程度は理解して頂いていると思う。地域の方に理解して頂けるような取り組みはもっと必要かと考える。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	敷地内に、近隣の親子や保育所の子供達が遊びに来たりしてくれている。 また、夏祭りの際には、限られた方にはなるが声をかけたり、飛び入りで参加する子供もいる。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域小学校の生徒が行事のお知らせに来訪してくれたり、それを見学に行ったりという関係はあるが、さほど発展はない。 老人会への参加を検討していたが、利用者の状況変化により実現できなかった。		町内会で行われるお祭り等の行事や清掃活動などの参加により交流の機会を作りたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の民生委員等の見学受け入れは行っているが、積極的な関わり、貢献は行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>前回評価を受け実施するようになったホーム便りの継続発行。利用者の栄養管理。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>実際のサービス向上に直結する内容で、有意義な会議としたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>制度や関連法案について大まかでも職員全員が理解できるようにしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>制度や関連法案について大まかでも職員全員が理解できるようにしていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	改まったの機会は設けていないが、日常の関わりの中で不満に思っているであろうことを察知するように努め、可能な限りそれを解消・改善するようにしている。 意見箱を設置しているが、現在まで利用者の利用はない。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の方の面会が週に1回程度ある方が多く、その都度利用者の様子を報告している。また体調に変化があった場合等は電話で連絡する等して適宜行っている。 面会の機会が少ない家族の方に対しては、手紙で様子を報告することもあり。 金銭管理については、面会の有無に関わらず、定期的に(月1回)出納帳を送付、職員の異動については、来訪時に報告・紹介すると共に、ホーム便り(年4回発行)に記載し、周知してもらえるよう努めている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口の担当として管理者、また第三者委員を置き、更に外部苦情相談機関を入居時に説明(重要事項説明書に記載)し、ホーム内に意見箱を設置している。 これまで、家族からの利用者個々に対する要望についてはできる限り誠意をもって対応しており、大きな不満・苦情は受けていない。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議または都度の個別提案を受け、良策・可能なものについては取り入れるようにしている。 個別面談を行い、職員個々の考えを確認できるように努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	可能な限り、時間外勤務や休日対応等の勤務調整を行い対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特別な事情がない限り異動はほとんどなく、利用者・家族との馴染みの関係は出来ていると思う。しかし、職員の退職は一定数あり、特に勤務年数が長い職員が退職した際は、利用者への影響もあると思われる。 また、研修により他職員の出入りもある為、出来る限り配慮はしているものの混乱もあると思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		計画的な職員研修の実施を行えるようにしたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		同一法人内のグループホーム間で見学や交流研修を行う予定。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		資格取得や研修参加へのサポートを行っている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		利用に至るまでの間に本人と面談する機会(見学・事前訪問調査)は少なく、本人の不安等はもとより、現状の事前情報が少ないことすらある状態。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		家族との面談の際には、傾聴の姿勢を持って話を聴き、必要な部分については説明や質問をしながら相手の思いを受け止めるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居を前提とした相談となっているが、グループホーム利用の対象でないと判断した場合は、他種のサービスの説明を行なっている(法人内にもあり)。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学時に本人が同行されお茶を一緒に飲んだり、職員が自宅まで迎えに行き入居に至った例はあるが、多くは家族の方のみの見学で、本人とは事前面談以外で接する事は無く入居される場合が多い。		入居前に時間の共有(仮利用やショートステイ等)が出来れば良いと思う。 現在、入居者の状態が落ち着き次第、自宅への宿泊を家族と検討中。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活で時間を共有することで利用者の思いを感じ取れるよう努めており、それにより学ぶ事も多い。 また、利用者の状況に応じてお手伝いをしてもらう等することにより、利用者自身に「役に立っている」という思いを持ってもらえるような対応、声掛けを心掛けている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	基本的には家族への負担が少ないよう、家族の方もお客様として対応している。 しかし、利用者に対する想いやどのようにすることが利用者にとって最善か等の考えは共有できる関係にあると思う。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	円滑な関係が保てるよう、面会時には生活状況を報告し、話題を提供する等して本人と家族との会話が成立するようにしている。 また、遠方の方には写真や手紙を送る等して関係が途切れないように配慮している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や馴染みの場所との関係は薄れているのが現状。		家族のみの付き添いでは外出困難な方に対して、スタッフの付き添いができるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	自発的に関わりを持てる方は勿論、なかなか関係を持ってない方であっても作業を分担して行ったり、職員が間に入るにより交流を持てるように心掛けている。 また、利用者によっては他利用者のお手伝いをしようしたり、声を掛ける等して他者を気遣う言動がある。 時には相互の関係性が悪化しないよう職員が注意している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	積極的に関係の維持を図っていないが、家族からの要望があった事柄については可能な限り対応することはできる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示のできる方に関しては希望を聞くこともあるが、ほとんどの場合は日々の言動から汲み取るように努めている。また、家族の意向を聴くことも多い。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前調査により可能な限り情報を把握するようにしているが十分では無い為、入居後の本人や家族との面談・会話から情報収集し把握するよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活パターンや残存能力の把握は勿論、心身状態など日々変動することについても行動観察をベースにして把握出来るよう努めている。 また、日々の変動については、必要に応じて職員間で情報を共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスの形は取っていないが、スタッフ会議時の話し合いをモニタリングとし、日々のアセスメントと照らして、再アセスメント及び作成は計画作成担当者が単独で行っている。家族には意向を確認し、反省させるようにしている。 スタッフによるアセスメントが出来るように勉強会を計画していたが、時間的な問題もあり継続できなかった。		スタッフ全員がアセスメントの視点が持てるように、計画的及び個別的に勉強の機会を設けるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直し及び状態変化が著しい時には期間前でも検討、作成をしているが、十分でないこともある。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の様子や発言、受診の結果等を個別に記録しているが、その内容を職員が出勤毎に精査できるとは限らず、タイムリーな情報の共有には役立っていないのが現状である。		記録用紙及び保管方法を検討し、職員が確認し易いようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の通院介助は可能な限り職員付き添いで行っている。また、医療との連携体制をとり、必要に応じ経度な医療処置をホーム内で行えるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	安全性の確保の為、警察や消防とは情報の提供等しているが、他はほとんどない。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他施設への移転時等、必要に応じて行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加してもらっているが、入居者支援については直接的な関わりはほとんどない持っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医に利用者の状況や家族の希望を報告し、必要な医療が受けられるようにしている。 入居時に希望のかかりつけ医の確認をし、変更がある際にはそれに対応している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じて専門医による診察(往診)を受けられるようになっている。診察時には、職員から状態の報告をし、医師が利用者ほ		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制をとっており、週1回看護師の訪問を受け日常的な健康管理を行っている。また、日中・夜間共に電話連絡にて相談をしたり、必要な指示を仰ぐことができるようになっている。しかし、夜間に関して利用者の事を良く知らない看護師が対応することが多い為、スムーズに指示がもらえないこともある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	必要に応じ入院先にホームでの生活状況をお知らせしたり、入院時の状況を面会等を通じて得るようにしている。また、退院の際には、治療完了の目処がたった時点で連絡をもらい、可能な限り早期の受け入れをしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約の際に、重度化した場合等のホームとしての考え(指針)を説明し同意を得ている。また、そのようになった場合には家族の考えや医療の見解を確認、話し合うようにしているが、早期の段階で繰り返しはなかなか行いづらい現状にある。 対応や方針については、家族や医療、職員で共有できていると思う。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療との連携をとることで、可能な限りホームで安心して生活してもらえるようにしている。しかし、看護師の従事者がいないことで限界もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移転時には本人の基本情報の他、ホームでの生活状況等を作成して情報提供している。また、可能であればこれまで使用していた馴染みのもの等を提供している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	場の雰囲気にあった話し方をしているが、基本的には利用者を尊重した声掛けが出来ていると思う。 理解力の高い方もいる為、申し送り等職員間の会話でも必要に応じて利用者の名前を伏せる等している。		記録やメモが利用者の目にとまることの無いよう、また職員間の会話に更に注意していく必要がある。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々の理解力に応じた話し方、説明をするようにしている。 しかし、自分の希望を表したり、自己決定をできる方は少ない。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理強いをしない、本人のペースを大切にケアを心掛けている為、食事・お茶の時間や入浴の曜日は設定しているが、それらもその方のペースや状況によって変更し臨機応変に対応できるようにしている。 しかし、希望に沿った対応はなかなかできていないのが現状。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	清潔感に配慮し、介助や声掛けにて身だしなみを整えるようにしている。 理美容は訪問理容が月に1回あり、毛染めやパーマ等も対応可能。希望により行きつけの店に行くことも可能であるが、家族の理解と協力(金銭面・付き添いの問題)が必要であり、現在は行っていない。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方の残存能力に応じて、食事の準備や後片付けを行ってもらっている。 しかし、能力の高い方に偏りがちな状況にある。		特定の方に偏るのではなく、様々な方に参加してもらえる状況にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品の摂取は原則自由で、家族の持ち込みや買い物時に購入する方もいる。但し、一度の過度の摂取を避ける工夫はしている。また、ホームでも嗜好による代替品の提供は行っているが、好みが十分に反映され、満たされているとは言い難いと思う。 酒類やたばこについても禁止してはいるが、現在はなし。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握は概ね出来ており、介助が必要な方はそれに合わせ排泄介護表の活用と共にトイレで排泄してもらえよう心掛けている。 夜間はおむつ使用の方でも、日中は下着で対応する等して、極力おむつの使用を減らし違和感(不快感)を軽減するようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的には曜日と時間帯の設定はあるが、拒否があったり食事状況(時間)、入眠状況により本人のペースに合わせてある程度臨機応変に対応している。しかし、一定時間で入浴介助を行っている現状では、十分に入浴を楽しんでもらえているとは言い難い。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の状況に応じて臥床の時間を設けたり、リビングや廊下にもソファを配置して休息できる空間、雰囲気を作っている。 また、消灯時間を設定していない為、入居者のペースに合わせて休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活で個々に役割を持って過ごしてもらっているが、外出やレクは限られており、楽しみや気晴らしといった点では不十分だと思う。		余暇時間をもう少し充実せたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いを自己管理している方がおり、買い物に行く機会も限られてはいるがある。 多くの方は金銭の管理はもとより、金銭に対する意識が乏しい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	特定の利用者は買い物等外出の希望があり対応しているが、職員体制の都合上、全ての希望に沿っているわけではない。現在は多くないが、今後希望者が増えた場合はもっと対応が難しくなる可能性が高い。 日常の外出は主に庭の散歩となっている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事を計画し行っている。利用者の状態により外出先を検討しているが、利用者からの希望は現段階では抽出できていない。		家族参加型の外出行事をしてみたいとの希望あり。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話や手紙は可能な限り支援しているが、家族への負担が大きくなるような過度な場合には、気分転換を図る等して電話や手紙に固執しないよう職員が対応している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を設定しておらず、いつでも面会してもらえるようにしている。また、面会時には笑顔で挨拶・対応するよう心掛け、お茶等を提供する等して心地よい雰囲気を作れるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ベッドからの転落防止の為ベッド柵(4点柵)を使用している方もいるが、身体拘束に当たることは十分に理解しスタッフにも説明、容易には行うことのないよう伝えている。		勉強会の実施を計画。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上夜勤帯では玄関施錠を行っているが、その他に施錠は行っておらず、外出(徘徊)する利用者に対しても付き添い・見守りにて対応している。 居室には鍵はなし。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	自由に行動をとれる環境の中でプライバシーには十分配慮し状況・所在確認を行っており、必要に応じて付き添いや見守り等の個別の対応をしている。独りで敷地外へ出てしまう方もおり、付き添い職員は携帯電話と社員証を持参するようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ナイフ類について職員管理とさせてもらっているが、他は利用者の状況により対応している。仏壇のろうそくに火を灯す際は職員が火をつけ、消すまで見届けて周囲に燃焼しやすいものはないかを確認し、またアイロンを使用する方には注意を促す等の対応をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	実際に生じた事故については、口頭や報告書により、現状や経緯等を他職員にもわかるようにし、同様のことが繰り返さないよう注意している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	入職時説明、マニュアルの完備はされているが、定期的な訓練は行っていない。		本年度、専門家による救命救急法の訓練を実施予定。また、この他にも定期的な勉強会及び訓練の実施を計画。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	入職時説明、マニュアルの完備がされている。また、年2回の訓練を実施。関連施設との協力体制は整っているが、地域の方との連携は運営推進会議で話題となるが現在はまだ取れていない。		スタッフ全員が安全で適切な対応が出来るよう訓練を重ねると共に、消防署に協力を求めた訓練を行いたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時の近況報告に併せて考え得る今後の変化及びリスクを説明している。可能な限り家族の意向を尊重して以降の対応をとるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々のバイタル測定は勿論のこと、表情や言動などからも異変に気づけるよう努めている。また、訪問看護師による週1回の健康管理、定期的な受診や往診も行っている。体調に異変が生じた場合は、必要に応じて速やかに受診や医療への相談を行い対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフ全員の薬に対する理解・把握が十分だとは言い難いが、内服薬の内容を入居者毎にファイリングし適宜確認できるようにしている。また、変更があった際には、口頭若しくはノートを活用して職員間で連絡し、利用者の状況に変化があった場合は医療機関に報告・相談している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取量の確認や腹部マッサージの実施等を行っているが、便秘を予防・解消できる程の対応にはなっていないと思う。現在は医療との連携により対応している現状。		専門業者による献立作成となる予定なので、食物による予防・解消の割合が期待できると考える。日常の中で、運動の機会を設けたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者に応じて、全介助・一部介助・声掛けにて食後口腔ケアを実施している。拒否ある場合は時間を置いて実施することもあるが、自立度の高い方に関しては、促しのみに止まっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量はアセスメントシートに記入し、把握に努めている。なかなか摂取されない方についても、時間を置いて提供したり、量や盛り付けを替えて提供する等、摂取してもらえるよう臨機応変に対応している。栄養バランスについては、業者による栄養管理を検討、現在実現に向け取り組み中。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防についてのマニュアルを作成。職員は出勤時に手洗いうがいを実施し、必要に応じ館内清掃時に消毒を行っている。また、実際に感染症が流行している際(時期)には再度注意を促し、その都度対応を職員に徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>調理器具は消毒を行う等して衛生的に使用できるようにしている。</p> <p>食品は、賞味期限の確認を徹底して行い、傷みやすい食材は早めに使用する等の配慮をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先には鉢植えを置いたり、季節に応じたディスプレイをする等して雰囲気づくりを行っている。また、玄関はスロープ状になっているので、車椅子の方や高齢の方でも入りやすい造りになっている。また、冬期は落雪注意を促す工夫を行っている。</p> <p>玄関が道路より見えない位置にある為、来訪されたことのない方にとっては分かりづらく、入りにくいと思う。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>館内は採光が良い為明るい雰囲気となっているが、夏季は日差しが強く当たることもあり、カーテンを使用したり場所移動をして対応している。</p> <p>季節を考えての飾り付けを心掛けているが、十分に行えているとは言えない現状。</p> <p>換気等により消臭には十分気をつけているので、臭いに対する不快感はないと思う。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下にはソファを置き、自由に利用することができる。また、必要に応じて椅子やテーブル(代替物のことあり)を移動・設置する等して対応している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>備付けの家具(ベッド・チェスト・テレビ台)があるが、希望により撤去も可能で、好みの家具の持ち込みやディスプレイをすることができる。</p> <p>また、居室内の配置換えを必要とする際は、本人または家族の方の了承を得て行うようにしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気はこまめに行い、臭いの防止や温度調整を行っている。また、館内の温度・空調設備は完備されているものの季節により十分とは言えないこともあるため、扇風機や暖房器、加湿器を用意し、必要に応じて使用している。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>車椅子の方が行動し易いように廊下や出入り口等は広めとなっている。また、廊下や浴室、トイレには手すりが設置されており、安全面を配慮した造りになっている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室入口に表札や個別ののれんを掛ける等して、自室の位置が分かりやすいようにしている。また、リビング(食堂)の席が変わった際には慣れるまで名前の表示をしたり、声をかけて案内する等して混乱を避けるようにしている。</p> <p>必要に応じ、説明書き(NCの促し)を用意する等して本人に理解してもらえるようにしている。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>廊下状のウッドデッキが整備されており、散歩や日光浴をしたり、洗濯物を干す等して活用している。</p> <p>広い庭や畑があり、野菜や花を育てたり、椅子とテーブルを用意してお茶を飲んだり食事したり、時には近隣の方(特に子供)とのふれあいの場となることもある。</p>		庭でお茶や食事をできる機会を増やしていきたい。

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての 利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回 程度ある たまにある ほとんどない	身体的重介護を要する方の減少に伴い、以前よりはゆったりとした時間を持つことが多くなったが、希望としてはもう少しあると利用者十分に寄り添えるのではないかと考えている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての 利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3 くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど いない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての 利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての 利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	利用者のペースにあったケアを心掛けており、ある程度柔軟性をもった対応が出来ていると考える。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての 家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない	

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	近所の方や近隣保育園の子供が時折庭に遊びに来ている
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増え ていない 全くいない	どれほど運営推進会議によりつながりが増えているかは不明
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2 /3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 /3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	希望に添えきれていない為十分とは言い難い
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての 家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者一人ひとりの個性やペースに合わせ、無理強いせず、急がないケアが出来るよう心掛けている。
また、入居者の他、ご家族などの来訪者にも笑顔で対応し、安心して日々の生活を送ってもらえるようにしている。
自然環境に恵まれているため、四季を感じながら穏やかに楽しみながら生活してもらえることができる。